

様式1

令和5年度 学校評価表

学校教育目標	自立貢献 ～自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することのできる生徒の育成～		
a ミッション	「生徒や保護者、地域から信頼される学校をつくる。」 生徒や保護者が美木中に来て良かった。行かせて良かった。また、教職員が美木中に勤務して良かったと思える学校にする。 ○知育・徳育・体育のバランスをとり、地域に根ざした教育活動の推進 ○学校教育の信頼性の確保と満足度の向上 ○SSRによる不登校等生徒への働きかけや不登校の未然防止	a ビジョン	・規範意識を身に付け、向上心を持ち、自ら学ぶ意欲的な生徒を育成する。 ・自己を大切にできる生徒を育成する。 ・自己を認識し、将来の夢や目標を立て、その達成に向けて計画ができる生徒を育成する。

尾道市立美木中学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明			k 二次評価 イ ロ ハ	l コメント	m 改善案
				100%	56%	56%	D	①【成果】研究授業や理論研修を通して、ICTを活用していく目的や事例を紹介した。 【課題】取組を行う中で、ICTの活用度合いに差がある。また、教科や単元等によってICTをどのように活用していくか探りながら行っている。						
確かな学力	「主体的な学び」を促す教育活動の工夫を行う。	・教科・領域において、ICT機器を活用した授業づくりに取り組み、授業研究等での実践発表を通して授業力を高める。	学校評価員ICTアンケート「生徒がICTを活用する授業を単元毎に1回以上設定している」に回答する教職員の割合	100%	56%		56%	D	①【成果】研究授業や理論研修を通して、ICTを活用していく目的や事例を紹介した。 【課題】取組を行う中で、ICTの活用度合いに差がある。また、教科や単元等によってICTをどのように活用していくか探りながら行っている。	○	これからのグローバル社会において、ICT教育は必要不可欠であり、教職員の方の達成度は低いが、生徒が分かりやすいと感じている事に一定の成果が得られたと思います。	① 引き続き、研究授業等を通して、積極的にICTを生徒が活用できるようなりにしていく。どの授業でも、だれでも簡単に扱えるようなICTの活用方法を考えていく。		
			学校評価生徒アンケート「ICTを活用した授業は、わかりやすい」に肯定的に回答する生徒の割合	85%	93%	109%	A	②【成果】授業の中で、ICTを活用することで、わかりやすいと感じる生徒が増えた。 【課題】生徒は肯定的な評価が高いが、実際の学力向上に十分に結びついていない。						
			学校評価生徒アンケート「授業では課題に対して自ら考え、自分の考えを言ったり話したりすることができる。」に肯定的に回答する生徒の割合	85%	78%	92%	B	③【成果】授業の中で、話す・書く等の表現をさせる場を設定することで、考えを表現する生徒が増えた。 【課題】考えを表現する場は増えたが、生徒を客観的に見たときに、積極的に発表しようとして深く考えて表現したりする生徒は少ない。						
豊かな心の育成	「書く」活動の充実を図り、思考力・表現力を育成する。	・教科・領域において、学習目標達成を見取る手立てとして、話す・書く等の表現をさせる場を設定し、表現力を育成する。	学校評価生徒アンケート「授業では課題に対して自ら考え、自分の考えを言ったり話したりすることができる。」に肯定的に回答する生徒の割合	85%	78%		92%	B	③【成果】授業の中で、話す・書く等の表現をさせる場を設定することで、考えを表現する生徒が増えた。 【課題】考えを表現する場は増えたが、生徒を客観的に見たときに、積極的に発表しようとして深く考えて表現したりする生徒は少ない。	○	多感な時期で容易ではないですが、生徒達との距離を縮め、個性を生かしていただけるよう、お願い致します。	③ 深く考えることができるような、単元を貫く問いを設定し、生徒自身が主体的に考え、表現できるようにしていく。		
			学校評価生徒アンケート「授業では、時間を意識してチャイムが鳴る2分前には授業準備をして着席している」に肯定的に回答する生徒の割合	185%	77%	91%	B	①【成果】2分前着席の声をまずは5月に重点課題として教職員が取り組んだ。その後、6月に生活委員の取組として生徒が中心となって声かけを行う中で、少しずつ2分前を意識して取り組む生徒が増えた。 【課題】取組を行う中で、着席を認識して行動できるようになりつつあるが、授業準備等が不十分の生徒もまだ多い。						
			学校評価生徒アンケート「私は、学校や地域で自分から進んであいさつを行うことができる」に肯定的に回答する生徒の割合	285%	90%	106%	A	②【成果】生活委員のあいさつ点検などの取組を通して、4月当初よりも自分からあいさつができる生徒が増えた。 【課題】自ら進んで気持ちのよいあいさつを行うことに対する自己肯定感が高いが、生徒が自己を客観的に見た際はまだ自ら進んであいさつを行うことができている。						
健やかな体の育成	自己を認識し、自分の将来の夢や目標を持つことができる生徒を育成する。	基本的な生活習慣を確立する。 ○三点固定（朝起きる時間、家庭学習時間、寝る時間）の確立	アセスアンケートの向社会的スキルの項目に肯定的に回答する生徒の割合	385%	53%		62%	C	③【成果】体育大会やリージャルスキルトレーニング等を通して、生徒のクラスの所属感や自己肯定感を高めることができた。 【課題】生徒リーダーを中心として行事を運営する際の教師の支援や活動後の肯定的評価が不十分な部分もあため、生徒への支援を充実することに課題がある。	○	以前に比べ、あいさつをしてくれる生徒が増えたように感じます。 礼儀・規律については、学校・家庭・地域の大人が良い連携を見せ、生徒たちに伝えていく必要があると思います。	① 2分前着席の徹底と、学習委員等と協力して、2分着席後に授業準備物の確認や授業の復習を行うなど、2分前に着席する方法を模索する。 ② 自ら進んで気持ちのよい挨拶を行う例やその姿を生徒・教職員で共通認識し、その実現に向けての取組を考えるなど、生徒が主体となって今の姿からよりよい姿になるような取組を行う。 ③ 生徒リーダーに対して、リーダーとして活動する際の支援とその後の評価を充実することで、活動への充実感とその後の意欲につながるような指導を行う。		
			学校評価生徒アンケート「起きる時刻と寝る時刻を決めて、毎日それを守って規則正しい生活を送っている」に肯定的に回答する生徒の割合	175%	72%	96%	B	①【成果】曜日ごとに日課表をつくらせることで毎日それを守って生活しようと思える生徒が増えた。 【課題】メディア長時間利用、塾や習い事などで帰る時間が遅くなったことが原因で、毎朝眠そうに登校してくる生徒が多い。						
			学校評価生徒アンケート「学年で定められた家庭学習時間を達成することができている」に肯定的に回答する生徒の割合	275%	61%	81%	B	②【成果】学年ごとに家庭学習時間を定めることにより、学年での自主学習の取り組みには力を入れやすくなった。 【課題】テスト直前の勉強はある程度時間を確保できている生徒もいるが、日々の予習復習などの時間や勉強の仕方を抑えていない生徒が多い。						

【自己評価 評価】

A: 100% (目標達成)
C: 60% (もう少し) < 80

B: 80% (ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。